

- (1) Toledo
- (2) Santa Maria
- (3) Pinta
- (4) Nina

- (5) Paros
- (6) league
- (7) San Salvador

しが容れられず、最後にトレド大僧正の斡旋により、西班牙の女王イサベラに謁して素志を達することを得たり。コロンブスは水夫百二十人をサンタ、マリア、ピンタ、ニナの三隻に分乗せしめ、一四九二年八月三日バロス港を出帆せり。十月一日、コロンブスはカナリー島より西方七百十リグの地に來れることを測定し、而もトスカネリの地圖によれば、アゾール島より支那までの距離は五十二度即ち三千百餘哩なる故、最早ジバングなるべしと考へたり。されど前途尙洋々たるものあり。船員漸く恐懼の念を起したりしが、コロンブスは或は激勵し或は慰撫し尙西航をつゞけ、十月十二日拂曉ピンタ號、先、砂岸に日光の輝けるを認め、砲を放つて他船に通報し、救世主よと叫び、遂にこの島に名づけたり。出帆後八十六日目なり。かくて翌年三月十五日バロス港に歸着せしが、コロンブスは尙三回の探検を試みたり。第二回は一四九三—九六年、第三回は一四九八—一五〇〇年、第四回は一五〇二—一五〇四年にして中央アメリカ(バナム附近)を發見せしは第四回探検の時なりき。

地理的發見の功果 一四九三年五月、ローマ法王アレクサンドル六世は勅令を發してアゾール島の西約百リグの上に南北兩極に達する一線を劃し、其れ以東は葡國領、以西は西國領なりと宣せり。翌一四九四年、葡國政府は之を改めてアゾール島の西方二百七十リグと改めたり。

- (1) John Cabot
- (2) Bristol
- (3) Nova Scotia
- (4) Cabral
- (5) Brazil
- (6) Amerigo Vespucci
- (7) Waldsee Müller
- (8) Cosmographiae Introductio
- (9) Balboa
- (10) Ferdinand Magellan
- (11) Seville
- (12) Peaceful

コロンブスに先んじてアメリカ大陸を發見せる者にジョン、カボットあり、カボットも伊太利人なるが、早く英國のプリストルに移住し、英王ヘンリー八世の保護により一四九七年五月プリストルを出帆しノヴァ、スコチアに達して歸り、翌年第二回の探検をなせしが、彼の地に死せり。又葡國人カブラルは一五〇〇年熱帶流に流されブラジルに達して歸れり。新大陸の名は以上の三人中の何れかの名を取るべかりしに、反つてフロレンス人アメリゴ、ヴェスプッチの名に因みてアメリカと呼ばれたり。これアメリゴ、ヴェスプッチは始めて新世界地圖を作り、一五〇七年獨逸國のウアルドゼー、ミューレルより出版發賣し、世界地理手引草と題せるより、新大陸の名は著者の名によつて呼ばるゝに至れるなり。ヴェスプッチは始めコロンブスの探検隊に加はりしが、後、己自身新大陸を探検して沿海を測量製圖したるなり。されど歐羅巴人がアメリカ大陸について眞の智識を得たるは稍後の事に屬し、其れ迄は印度と思ひたりしなり。これ後に至り、其の地を西印度、土人をアメリカ、インヂアンと呼びて印度と區別したる所以なり。一五一三年バルボア始めてバナム地峽の西に大洋ありと言ひ、マジエラン一行の世界一周(一五二二年)によつて始めて太平洋を航行したりしなり。

(10) フェルデナンド、マジエランは葡國人なれども、西國王の保護により、一五一九年九月二十日、船五隻二百七十人を率ゐてセザイル港を發し、マジエラン海峽を経て大洋に出で、海上和平

- (1) Pacific ocean
- (2) Philippine Island
- (3) Zebu
- (4) Victoria
- (5) Eratosthenes
- (6) Draper

なりとて太平洋と命名せり。一五二二年、一群島を發見して皇太子フィリップの名譽の爲にフィリップと命名せしが、マジエランはセブ島にて土人に殺されたれども、一行は尙航行をつづけ、一五二二年九月六日セヴィルに歸着せり。五隻の中、四隻を失ひ、無事歸着せしはヴィクトリア號一隻のみにて、生存者僅に十八人なりき。久しく圖書館の匣底に埋れたりしエラトステネス (ERATOSTHENES) の説は茲に始めて實證せられ、地球の周圍二萬八千哩なりとの推定は僅に三千餘哩の差違に過ぎざること明かとなれり。ドレーパー曰く「歴史上の人類の功業中、マジエランの世界一周ほど偉大なるはあらず、コロンブスの探検も爲に其の光を失へり。」と。當時の西班牙人は「航海上に於けるこの奇跡は、ノア洪水以來曾て有らざる所なり。」と言ひたり。この結果は實に中世紀の學說・信仰を根底より覆へしなり。人類が如何に地球の背部に立ち、且生活し得るかが當時の學界の問題たりしこと、恰も遊星に住民あるか否かが現今學界の問題なるが如し。

マジエランの世界一周後、二百年間は、歐羅巴人の全勢力は大洋上に向ひ、西・葡・英・佛・蘭の諸國は競うて航海遠征を企て、南北亞米利加大陸の内地を踏査し、遂には太平洋上の濠太刺利亞以下の諸島を發見するに至れり。

探検の動機 十六世紀の大航海は、現今の科學的探検に似ず、船員も之を派遣せる王侯も單

- (1) Guinea
- (2) Mexico
- (3) Peru
- (4) Ponce de Leon
- (5) Florida

に利益を得んことを目的とし、地理上の發見をなさんが爲にはあらざりき。ギニーに植民し墨西哥・秘露を侵略せしは黄金を本國に齎さんが爲なり。西班牙人は黄金の平野を發見せんとして長き間亞米利加内地を探検したり。一五一三年にボンズ、ド、レオンは不老泉を探せんが爲に一隊の長として遠征し、到る處の河湖に浴を試みて靈泉なるか否かを檢し、數年間フロリダを巡歴せり。印度に向へる探検家は、勞働せずして巨萬の富を得んが爲に出帆せり。當時香料を一隻の船に積載して歸帆すれば多額の利益を贏ち得たりしなり。コロンブス自身は出帆以前は一攫千金を欲する冒險家に過ぎず。イサベラに約するに、己は大西洋總督の號を稱し、發見地の副王となりて之を子孫に傳へ、租税の十分一及び商業上の利益の八分一を得んことを以てせり。發見の結果の世界に偉大なる影響を及さんことを期せしにあらざり、唯己自身の利益の爲になせるなり。コロンブスの第一回航行日誌に歸航の事を記して曰く「余は殊更に船員に各自の航程の長さを實際より以上に告げ、以て航路を遠き様に感ぜしめ、何人にも印度に至る路を知り得ざらしめ、よりにて西航の鍵を己一身に握らんとす。」と。新地を發見せし人々が競争者を排せんことに苦心し、黄金・香料の地に達する航路を知る者は、己一人ならんことを欲したるは古代のフェニキア人の如くなりき。コロンブスのアゾールズに歸着するや、アゾールズの葡人は凡ての水夫を入牢せしめ、錨を切斷せり。マジエラン一行のモルッカに至るや、

世界一周の先鞭をつけたる故を以て、葡萄牙人は船員を入牢せしめたり。同國人さへも互に他を排斥せり。キューバ總督は其の副官フェルデナンド、コルテスが、メキシコに遠征せるを聞き、之を中止せしめんが爲に追跡の軍を送れり。西班牙人の秘露を征服して其の主となるや、二派に別れて烈しく相戦ひ、ピサロは殺されアルマグロは斬殺せられたり。要するに、かの驚嘆すべき地理的大発見は、卑しき動機によりて成されたりしなり。

當時の探検は費用を要すること僅少なりしかば、之を償ふこと易々たりき。コロンブスは三隻、百二十人を率ゐながら、遠征費僅に五千チユカットに過ぎざりき。マジエランは二萬二千チユカットを携帯せしが、一萬チユカットに價する丁子香を積載して歸れり。此の陸上の遠征には何等の準備なくして出發し、幾多の辛酸を嘗めたり。一五四〇年オレラナは、アンデス山後の諸國を探検せんとし、少數の人々と共にペルーを出發せしが、途中食物なくして靴の皮をさへ食したり。アマゾン川を下り、人類の曾て經驗せざりし困難を嘗めて、南米の最も廣き荒野を横ざりてブラジルに達したり。是等の探検家は實に鐵石の人なりしなり。遠征軍を派遣せし諸王は、領土を増さんことを目的とし、國利を増大せんが爲に新地を探検せり。葡萄牙人はマデイラ・アゾールスを領有し、亞弗利加沿岸に城塞を築き、印度・モルッカ等は或は征服し、或は本土の君主と協約し、或は港灣の支配權を得、遂に要塞・商店・造兵廠を設け、艦隊・陸軍

- (5) Orellana
- (6) Andes
- (7) Amazon
- (1) Cortez
- (2) Pizarro
- (3) Almagro
- (4) Ducat = 9 shillings

を送り、總督をおけり。埃及・オルムズのスルタンを破るや、其の印度と貿易するを禁止し、

印度洋の海上權を握り、外國船にして認可證を有せざる者は海賊として之を取扱ひ、水夫を死刑に處せり。西班牙人の亞米利加に至るや、蠻人の雜住せるのみなりしかば、直に之を占領してカステラの國旗を掲げ、土人をして土産を奉獻せしめ、同行せし王の書記官は之を占領せし旨を記入し、茲に其の地は王領となれり。メキシコ及びペルーは當時既に國家を形造り國王之を統治せしが、一五一九年コルテスのメキシコに遠征するや、メキシコ軍は白人の馬に跨つて馳驅し、雷聲の轟然たるに驚き懼れ、太陽の諸子なりとして直に降服せり。されども國王に迫りて寶庫を讓るべきを命ずるに及び、彼等は戰を宣したり。十萬の王軍は、千二百の西國兵と戦ひて勝つこと能はざりき。一五二一年コルテス遂にメキシコ王國を亡して、其の君主となれり。メキシコ貴族は今も征服者の裔なりと自負せり。當時メキシコ文化は稍進歩し繪文字を用ひて思想を發表し、殿堂を建て神を祭り、人類を犠牲として捧げたり。されど牛又は馬を知らず、犬の外、家畜を有せず、玉蜀黍を耕せども、小麥・大麥・燕麥等はなかりき。

ペルーの文化はメキシコに勝り、種々の點に於て古代アッシリアに似たり。帝國の首都は壯大なる王宮・殿堂を以て充され、道路・橋梁・水道を建設し、インカ王朝は歴代仁政を施したり。西班牙の遠征隊は二百人以下にして獍猛なる冒險家フランシスコ、ピサロ (1471-1541 B.C.)

- (1) Ormuz
- (2) Incas

其の長たり。ピサロ、インカ王朝のアタフアルパを欺きて之を入牢せしめしに、王は己を赦免せば、室内に等身の高さまで黄金器を積まんと請ひしかば、ピサロ之を聽せり。王は全國の王宮及び殿堂の黄金器を集め、其の價格千五百萬弗に達したりといふ。ピサロは是等の寶物を受け取りて後、全王國を奪取し、一五三三年アタフアルパを殺し、インカ王朝に亡びぬ。要するに、葡・西兩國人は百年の大計を立てしにあらざり、唯銀を出来るだけ多量に持ち去らんとせしかば、新世界の開拓、植民の發展は殆ど見るべからず。當時何人も印度の舊帝國が歐羅巴の一洲となり、新西班牙・新佛蘭西・新和蘭・新英蘭の住民が一國民となつて舊大陸よりも強大なる新國家を興さんことに思ひ及ばざりしなり。

植物の移植 亞米利加には當時歐人に知られざりし玉蜀黍・烟草・馬鈴薯・コ、ア・蘭、ブラジルの染料・材木・鳳梨・朝鮮蘚^パ、メキシコのダリア、ペルーの犬がらし等あり。これ等は歐洲に移植せられ、馬鈴薯は「貧民のパン」となり、亞細亞の植物はシ、リー・西班牙より、更にアメリカに移植せらる。綿花・甘蔗・珈琲等は新大陸・アフリカ及び濠太刺利亞に移植せられ、今は亞細亞の商品にあらずして植民地の商品たるに至れり。

黑人賣買 一攫千金を夢みたる探檢家は遂に奴隸賣買によつて私腹を肥さんとせり。西班牙人のアンチルス諸島にて黄金を獲ることの困難なるを見るや、直に土人を奴隸に賣り以て黄金

(1) Atahualpa

(2) Antilles

(1) San Domingo

(2) Flemings

に代ふるに至れり。又之と同時に甘蔗を移植し、土人をして之を耕さしめしが、土人苦役に慣れずして自殺し、或は森林に逃れ、大多數は過勞又は疾病の爲に死滅せり。西班牙人の來りし時、サン、ドミンゴに四十萬の蠻人ありしが、一五〇八年には僅に六萬人となり、一五一四年には一萬四千人、十六世紀の終にはこの種族は殆ど絶滅したり。是に於て西班牙人はアメリカ土人よりも一層強健にして炎暑に慣れたるアフリカ黑人を以て之に代ふる方針を取れり。初めギニー海岸に植民せし葡萄牙人は、永き間、黑人を奴隸として使役せしが、西班牙人は葡萄牙人より之を買へり。チャールス五世は一五一九年⁽²⁾フレミンクの貴族に、八年間奴隸を賣買する專賣權を與へしが、彼等は直接にジェノアの商人に奴隸を賣れり。是近世奴隸賣買の始なり。歐羅巴商人はアフリカ海岸に至りて黑人を求め、時としては黑人の小君主より、其の臣民さへも、硝子玉の頸飾り、外觀の美しき贗造品と交換して買ひ取り、或は黑人の一村落を攻撃し、全住民を捕虜として之を市場に賣れり。

十六世紀の英國提督は四百人の捕虜を運び去らんが爲に、數千人の黒奴を死せしめしを誇れり。彼は黒奴を船中の薄暗き窖内に密載し、數週間の航海をつゞけたり。之が爲に多數の黒奴は途に死せり。生存者は亞米利加に達するや、直に奴隸に賣られ、甘蔗・珈琲の栽培に使役せられ、監督者は鞭撻を加へて之を酷使せり。奴隸貿易は一八一五年まで續き、商人等は初め西

班牙人に賣りしが、後には亞米利加に移住せし歐羅巴人に賣れり。奴隸を賣買する商人を世に「黒檀商賣」と嘲笑せしかども、奴隸商は忽ちにして富裕となり得たり。甘蔗・綿花・珈琲の栽培盛となるに従ひて、黒奴の需用益々増加せしかば、アンチルス・ブラジル・ヴェネスエラ等に盛に輸入せられ、北米の英植民地にさへ輸送せられ、今も北米にては多數の黒人を見るべし。かくて阿弗利加種族は滅亡せるアメリカ土人の場所を占めて、アメリカを征服したり。

商業革命 十五六世紀の探検は商業の發達を促し、葡・西兩國人は、多數の商船を出して其の産物を歐洲に齎せり。東洋の胡椒・肉桂・丁香・薑等は、殆ど皆葡國人の手にて取り扱はれ、リスボンはその集散地として頗る繁昌したり。西班牙人も亦香料を得んとせしが、コロンブスはカスチラ女王より日本王と條約を結ぶべき委任を受け、キューバ島に到るや、日本なりと考へ、アラビア語に通ぜる一猶太人を上陸せしめ、香料の見本を携へてこの地に産するかを問はしむ。されど、この地は香料の産地にあらざりき。稍遅れてマジェランは印度に航する路を發見せしかど、葡人の航路に比してあまりに長かりき。西班牙人は豫期に反せしかどもキューバ島民の黄金を鼻の飾りとせしを見、頻に黄金を奪ひ去り、アンチルス諸島の金は忽ち影を失ひたり。メキシコ・ペルーにては其の君主の藏庫より金銀・財寶を運び去り又礦山を採掘せり。メキシコは最も銀に富み、一五四五年メキシコのポトシ⁽³⁾にて發見せし銀鑛は今日も尙採掘に従

- (1) Venesuela
(2) Commercial revolution
(3) Potosi

事しつゝあり。毎年金・銀・財寶を積載せし商船は、西班牙艦隊に護衛せられてアメリカを出帆し、セザイル港に入れり。實にリスボンとセザイルとは當時に於ける世界の二大貿易港たりしなり。積荷の價格は次第に騰貴し、十六世紀前半に一隻三百萬ピアストル⁽¹⁾なりし者、十六世紀後半には千百萬ピアストルに上り、千六百年より千六百二十年には二千二百萬ピアストルとなり、一六二四年には二千八百萬ピアストルに上れり。アメリカは金銀の國、印度は香料の國と云はれたり。

要するに十五世紀末に於ける航海探検の成功は歴史中最も幸運なる結果を齎らし、從來地中海及びバルト海に局限せられたる商路を一變せしめて遠く大西洋及び印度洋に航してアフリカ洲・アジア洲及び新大陸との貿易を開き、廣大なる植民地を得て、巨多の貨物は歐洲の市場にあらはれ、作品の販路擴張せられて金・銀貨盛に流入し、日常生活に重大なる變化を生じたり。商業革命と名づくる所以なり。今や商人は地中海・バルチック海の小天地を去つて全世界に之を擴張するに至りたれば、従前の如き小規模なる都市商業にては十分なる發展を遂げ得べくもあらず。是に於て國民的商業は都市商業に代つて新に勃興し、伊太利都市並びにハンザ同盟諸市これより衰へたり。時恰も中央集權制樹立して國民的自覺漸く旺盛となりしかば、國民競うて植民帝國を建設するに努め、西・葡の二國まづ世界の富を壟斷したり。ついでオランダ・

- (1) piaster

フランス・イギリスの諸國民は競うて大西洋・印度洋・太平洋上に活動し、國民精神は商業の上に現はれ、都市國家・自由市の商業は永久に姿を潜めたり。かくて商業上の國民主義は國力均衡論と相須ちて貿易均衡論を主持し、この後遂に重商主義の經濟政策を執るに至れり。

商業革命の結果 地理的探検をなせる當時は印度・支那の舊世界には最も進歩せる文明人あり、アメリカの新世界には最も野蠻なる人種、住したり。陸海の動植物並びに未知の人種等、一齊に歐羅巴人の前に現はれ、多くの智識は不意に歐羅巴人を刺激し、此の新刺激物はやがて天文・物理・博物其の他の科學を促進せしめたり。金銀・寶石等は歐洲に夥しく輸入し、胡椒・肉桂・砂糖は歐洲人の食膳に上り、十五世紀頃、東洋に輸出せし結果として歐洲に消失せし金銀は、アメリカ鑛山、西國人の手に落ちてより再び増加し、銀の價格は四分の一となれり。即ち物價は四倍となり、商工業の資本は四倍を要するに至れり。かく新大陸は金・銀を産し、歐洲人は之を輸入して亞細亞洲に出して東洋の貨物と交換し、世界の銀貨相場は組織的に定められたり。而して香料は葡國人の手により、金銀は西國人の手によりて取り扱はれたり。中世紀の間、亞細亞洲の商品は地中海を通過し、ヴェニス・フロレンス・ジェノア及び中部獨逸のウグスブルグ・ラチスボン・ケルン等は商業の中心たりしが、大西洋航路の發見せらるゝに及び、商業の中心は大洋沿岸の港灣に移り、初はリスボン、後にはアムステルダム・ホルドー・

- (1) Ratisbon (Regensburg)
- (2) Amsterdam
- (3) Bordeaux

ナント及びロンドン等、世界の大市場となれり。かくて商業革命の結果は都市商業の衰微、植民帝國の建設、商業會社の勃興、銀行の發達、新商品の輸入、農商工業の發達を促したるが、更に重大なる効果を齎せるは全世界を歐羅巴化せしことなり。實に商業革命は歐洲人世界征服の出發點なり。アレクサンドル大王の功業も今は其の光を失ひたりと云ふべし。濠洲及びアメリカ大陸に歐羅巴語用ひられ、北米は第二の歐羅巴となり、歐洲の習慣・教育・衣服・家屋は全世界に普及するに至れり。加之商業の發展は一般市民に對して富・智識・慰安の増大を意味し、遂にブルジョアの⁽¹⁾新階級發生したり。是等は後篇に詳説せん。

結語 本篇を終るに臨み、中世紀より近世史に入るべき境界線を劃して其の切斷面を一瞥せんに、中世紀の末葉には宗教・藝術・政治・經濟等、あらゆる方面に於て新生の氣分漲り新思想の潑刺たるを見るべし。ルネサンスの文化は宗教の束縛を脱して自由思想の發現となり、エラスムス・ロイヒリンの運動は宗教改革に曉鐘を傳へ、イタリアに於てさへサヴォナローラはローマ法王の俗權に對する反抗意志を示したり。地理的探検は世界の擴大となり、マジエランの世界一周、コペルニクスの地動説は傳統的の世界平面説・天動説を覆へし、バルチック海・地中海利用時代茲に終を告げ、大洋航行時代となれり。國民的國家は既に封建國家に代りしが、今や國民經濟は都市經濟に代つて商業會社の勃興、資本主義の競争、植民帝國の建設となり、世界統一

- (1) Bourgeois

主義の破滅、國家主義の興隆、國際主義の擡頭となれり。やがて國力均衡論、貿易均衡説は政治經濟の根本主義となり、近世に於ける激烈なる國際的競争を醸すに至れり。

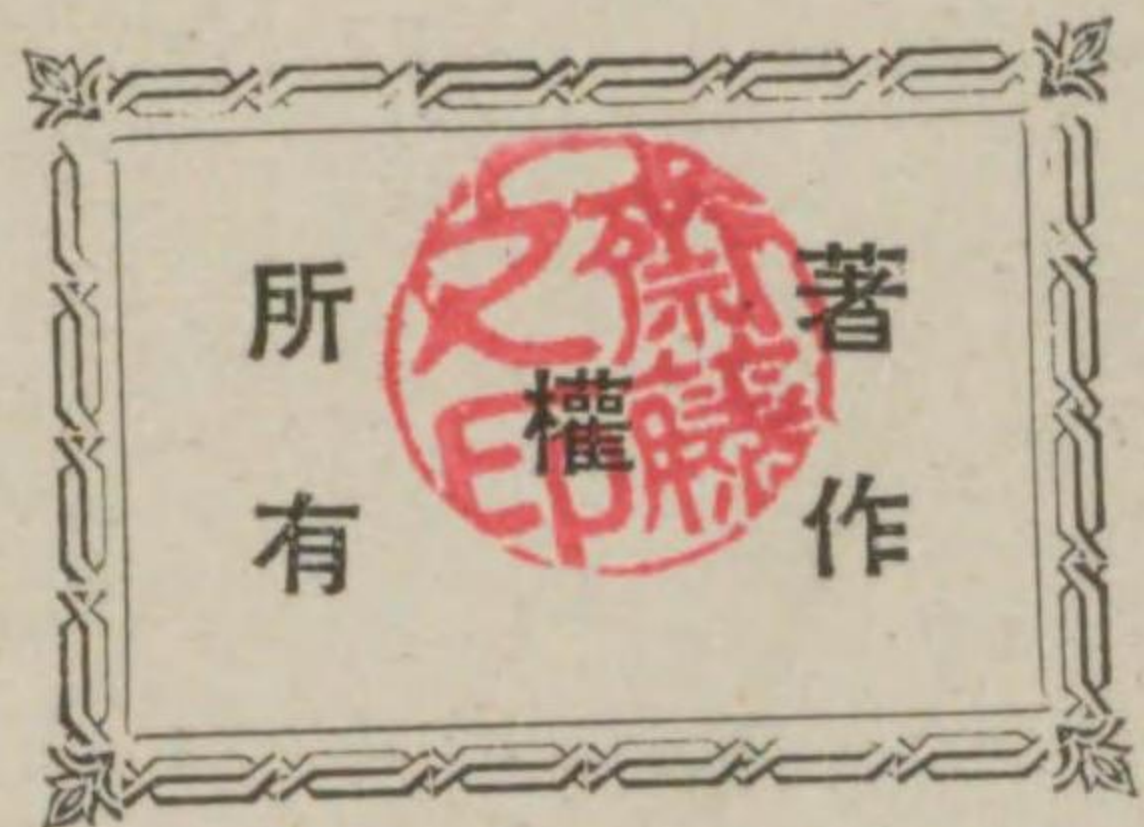
西洋國民史 上卷 終

昭和五年六月十日印
昭和五年六月廿日發

行 刷

西洋國民史 [上]

定價金五圓八拾錢



著 者	齋 藤 斐 章
發 行 者	東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地
目 目	黑 甚
印 刷 者	東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
根 本 力	三

印 刷 所 三 興 社 總 經 理 英 舍

發行所

東京市京橋區南傳馬町二丁目
新瀧縣長岡市表町四丁目(本店)
新潟市古町通七番町(支店)

目 黒 書 店

東京 電話京橋三四一七番 振替東京二八〇九番
岡長 電話長岡一八番 振替東京三六一九番
新潟 電話新潟九〇三番 振替長野四〇九〇番

610
11

